

1 血液培養陽性ボトルからの直接薬剤感受
2 性検査の有用性について

3
4 ○佐海知子¹ 村田正太¹ 齊藤知子¹ 宮部安規子¹
5 瀬川俊介¹ 上原麻美¹ 渡邊正治¹ 野村文夫^{1,2}(¹千葉
6 大附属病院 ²千葉大学大学院分子病態解析学)

7
8 【背景と目的】血液培養は敗血症の診断・治療に重
9 要な検査であり迅速な報告が要求される。当検査室
10 では血液培養陽性と判定された検体について、陽性
11 ボトル血液から直接感受性検査を実施し、培養後 8
12 時間で報告している。今回コロニーからの間接法と
13 直接法の結果を比較し有用性を検討することを目的
14 とした。【対象と方法】2013 年 6 月から 9 月の 4 か
15 月間に当検査室において培養陽性となり単一菌で分
16 離されたグラム陰性桿菌 40 株、グラム陽性球菌 25
17 株を対象とした。血液培養装置は BACTEK FX(BD)を
18 使用し、直接法は微量液体希釈法(MIC2000)で行った。
19 滅菌生理食塩水 30ml に陽性ボトル血液 3ml を加え接
20 種菌液とし、フローズプレート栄研 FF11, FF12 を
21 グラム染色性で使い分け培養 8 時間後に目視判定し
22 た。間接法はサブカルチャー後のコロニーからプロ
23 ンプト法で菌液作製後ドライパネル NC3. 11C, NC3. 1
24 2C, PC3. 1J を用いて MicroScan Walk Away96SI (SIEME
25 NS)で測定した。【結果】判定基準についてグラム陰
26 性桿菌では偽感性(S→R)を 2.7%認めたが偽耐性(R
27 →S)は 0%で 97.3%の判定が一致した。グラム陽性
28 球菌では偽感性 4.9%、偽耐性 0.4%で 94.7%の判
29 定が一致した。今回 ESBL 産生 *E. coli* が 4 株ありス
30 クリーニング薬剤の AZT は 100%一致した。*S. aureus*
31 の MPIPC は偽感性を 10%認め 90%の判定が一致した。

32 【考察】直接法は間接法と比較し判定時間 8 時間で
33 97.3%の一致率を示した。ESBL 産生菌スクリーニ
34 ング薬剤の一致率は 100%であり、ESBL 産生菌の可能
35 性を迅速に報告できた。以上のことから直接法は迅
36 速な結果報告に有用性が高いと思われた。しかし、
37 *S. aureus* では MPIPC の判定値が S から R に変わるこ
38 とがあり MRSA、MSSA の判別については注意が必要で
39 ある。 (043-224-5298)